

①気にかけた、気にかける行動や取組の内容

より多くの情報を集める

地域イベントを増やす

百歳体操の申込みが増えているが、会場のキャバが無く待機してもらっている。回数を増やしたいが実施者も高齢者なので安易に増やすことができない。

子ども、母が来所してくれる

公園デビュー

地域活動が再開し、コロナ前に戻りつつある

地域に向けて包括の窓口周知や早めの相談支援の呼びかけ

敬老会でのペットボトルのお茶を渡すのではなく、コップで渡すことにより声掛けを行う

相談者と同行することの素晴らしさ

②課題と感じたこと

コロナ禍後の地域活動

独居高齢の問題

高齢患者を家庭での見守りの有無

マンパワー
人材不足（教育が必要）

人手不足

スタッフも高齢化

コロナ禍により「非接触社会」となったことを、どのように「気にかける」にするか？

コロナ禍により薬処方が1回／月→1回／3月になり、コロナ禍前に戻しにくい

支援拒否や安否確認できない方は緊急連絡先を教えてくれない

職員間の流動が激しい

地域の人材育成について、学生と企業がコラボをすすめる

会館のキャバの問題（キャバが限られており、なかなか受け入れられない）

体操の申し込みが増加している

ゴミ屋敷、ペットの多頭飼育（環境問題）

親族がいなかったり、親族がいるとしても連絡したくないケースが多い

職員は福祉教育や実習のコラボし、教育として他施設も経験すべき

事前の終活の問題

③連携・協働について

他の施設の活動を参考にする

地域に対し、包括の窓口を周知徹底する

包括相談を呼びかける

④工夫・改善点・アイデア

イベントで会う回数を増やす

おばあちゃんのつながり

新マンション住人向けに地域を知ってもらうため写真展を、地域主体でマルシェを開催し、アンケートも実施した

ラインの公式アカウント作成している

信頼関係を築き、連絡先などを聞き取る

誰が声掛けをするか？

認知症の方への相談対応の仕方

課題

- ・このような時代にどのように個人情報を聞き出すか。
- ・福祉人材をどう見出すか。
- ・つながる方法、誰が声をかけるか。
- ・アンケートの活用はつながるきっかけとして大事な！